



Title: Response Shifts in the Canadian Occupational Performance Measure: A Convergent Mixed-Methods Study (カナダ作業遂行測定におけるレスポンスシフト：収束的混合研究)

Authors: Kanta Ohno, Riho Oi, Ai Harada, Kounosuke Tomori, Tatsunori Sawada (大野 勘太(東京工科大 助教)、大井 莉帆(五反田リハビリテーション病院 作業療法士)、原田 彩衣(静岡徳洲会病院 作業療法士)、友利 幸之介(東京工科大学 教授)、澤田 辰徳(東京工科大学 教授))

Journal: American Journal of Occupational Therapy 78(3) (2024) : 7803205100.

掲載年月: 2024 年 5 月

研究概要: 作業療法で頻用されている患者報告式アウトカムであるカナダ作業遂行測定(Canadian Occupational Performance Measure; COPM)のレスポンスシフト (Response shift; RS) について調査した。回復期リハビリテーション病棟入院患者に半構造化インタビューを実施し、COPM で特定した作業に関する認識の変化について帰納的内容分析を行い、COPM における RS の分類をした。また、RS が測定値に与える影響を定量的に解析した。

研究背景: 患者報告式アウトカムには RS という判断基準の変化が測定結果に影響を及ぼす特有の評価バイアスがある。COPM では、クライアント自身が問題として認識する作業について聴取する半構造化面接方法であり、その作業に対する重要度、遂行度、満足度をそれぞれ 10 段階で評価するが、COPM の開発段階では RS について言及されていない。

研究成果: 質的調査の結果、COPM における RS は 5 種類の概念と 29 種のサブカテゴリーに分類された (図 1)。また、RS が測定値に与える影響を定量的に解析した結果、臨床上有意味のある最小変化量(2.0 点)を超える変化が起きていた割合は遂行度で 26.1%、満足度で 30.4%だった (図 2)。

名称	初回評価	再評価	概念の定義
置換			初回で設定された要素が再評価で異なる要素へと置き換わる変化
追加			初回にはなかった要素が再評価で付帯される変化
削減			初回に設定された要素が再評価で削除、減少する変化
不特定			要素が特定されていないために評価間で一致しない
具体化			初回で抽象的に設定された要素が再評価で具体的になる変化

図 1 レスポンスシフトの概念の図解化

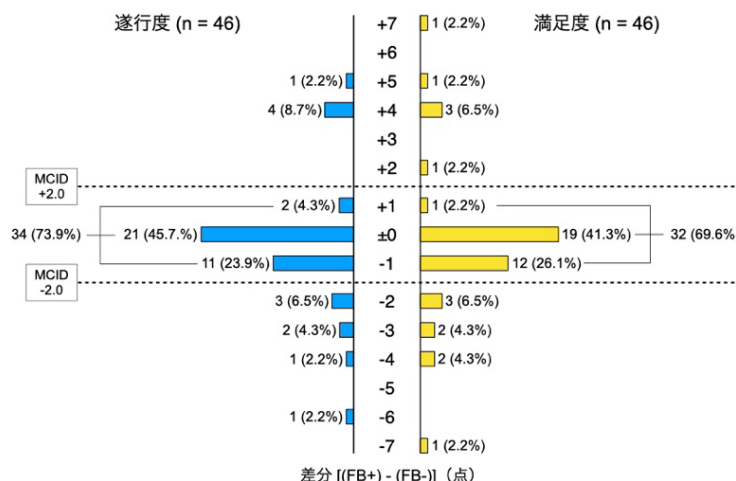


図2 レスポンスシフトが発生した作業のCOPMスコアのヒストグラム

社会への影響: COPM は作業療法領域において無作為化比較試験などの主要評価項目としても採用されるほど、世界的に地位が確立された効果指標ではあるが、RS の発生による尺度得点への質的、量的な影響が確認された。COPM は、事前に尺度項目が決められていない自由度の高い効果指標であるため、実施時には項目を極力具体的に設定するために、半構造的な面接枠組みの利用が推奨される。また、時間的な経過に伴う対象者の認識の変化を考慮して、測定結果の判断が求められる。

専門用語:

患者報告式アウトカム: 症状や QOL(Quality of life)に関して、患者が自分自身で判定し、その結果に医師をはじめとする第三者の意見が一切介在されない評価方法

レスポンスシフト：患者の価値観が揺らぐことで測定結果が影響を受けてしまうという患者報告式アウトカム特有の評価バイアス

カナダ作業遂行測定：カナダ作業療法士協会によって開発された患者報告式アウトカム。現在までに 40 を超える国や地域で臨床研究、臨床実践で活用されている作業療法におけるゴールドスタンダードと言える患者報告式アウトカム。

临床上意味のある最小重要差：標準集団において事前に定められた期間に重要な治療の有効性が得られたと判断できる、ある患者個人のある尺度の得点の変化